鳴海ヶ丘会々報

発行 宮崎県立高鍋高等学校同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL http://www.narumigaoka.jp/

同窓生の皆様へ

高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」会長
岩切　正司

宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が広まり3年が経ちましたが、未だ世界的に大変な状況になっています。そのような中で、皆様におかれましては、今現在も仕事や生活等において、多大なご苦労等があるのではないかと拝察いたします。少しでも早く以前の生活に戻れるよう、さらに一人ひとりがしっかりした感染症対策を心掛ける事が重要となります。

昨年、高鍋高校は創立百周年を迎えました。毎年恒例であり最大の行事である高鍋高校OB祭は、小澤正隆実行委員長を中心に平成11年卒業の皆様が担当のもと、百周年記念式典と同日開催され、今までの感謝とご恩を胸に我が母校が次の百年への新たな第一歩を踏み出すとの想いから『恩～GO ON～』のテーマを掲げ、多くのご来賓の皆様、そして全校生徒も参加して盛会に終えることができました。同じ学び舎で苦楽を共にした卒業生達が、二十年以上の時を経て、それぞれが歩んできた経験を活かし、一致団結して取り組み、コロナ禍で何かと制約がある中で見事なOB祭を開催してくれました。そしてそれは高鍋高校の伝統と誇りを次世代の後輩たちへ次の第一歩に向けて立派に受け継がれていくと確信しました。

担当学年の皆様は、この経験を機に次のステップに向けて頑張って欲しいと心から願うところであります。現在、進学者が少なくなった背景には少子化はもちろんですが、他校への進学希望者が多くなっていることも事実です。文武両道、歴史と伝統の高鍋高校を復活させる為に、我々同窓会も何らかの策を考え、行動していかなければなりません。我々同窓会は百周年記念事業の柱として、鳴海ヶ丘会館の改修をおこないました。内部も改善され、これからは魅力ある高鍋高校として多くの中学生が高鍋高校に目を向け、運動部の合宿等に加え高鍋高校への進学を目標とする進学塾としても幅広く活用できる環境に改修されました。これからも同窓会会員の皆様のご支援ご協力を賜りながら歴史と伝統を大切に、同窓会会員間の親睦はもとより、学校そして地域に貢献できるよう活動してまいります。

最後に高鍋高校百周年記念事業、OB祭開催にあたり皆様の温かいご支援、ご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。そして皆様方のご健康ご健勝と、コロナウイルスの1日も早い終息を心からお祈りいたします。ありがとうございました。

令和５年度OB祭について

事務局長
金城　成郎

令和5年度OB祭の事務局員として、一言ご挨拶申し上げます。

私たちは昨年9月に準備委員会を発足し、組織体制等について協議を重ね、昨年11月に実行委員会を正式に設立いたしました。実行委員として、高鍋高校創立百周年記念式典及びOB祭引継式等に出席させていただき、母校高鍋高校の歴史や、先輩方をはじめ卒業生の絆の深さに感銘を受けたところです。

さて、私たちは年末と年始の二度にわたって同窓会を開催し、当時の先生方や同窓生と再会を果たしました。卒業から23年を経たこの機会に旧交を温め、42歳の節目に迎えるOB祭に向けて、意識高揚を図ることができたと感じております。

今年は、高鍋高校の創立百一周年目にあたり、次の百年へと向かう最初の年となります。私たちは、高鍋高校が新しい時代への一歩を踏み出していく中で、OB祭につきましてもこれまでの伝統を継承しつつも、時代の流れに沿った取り組みを展開し、末永く地域に愛され続けるOB祭として次世代へと繋げていく事が大切だと考えるようになりました。

令和5年度OB祭におきましては、開催を通じて母校や地域の発展を図りつつ、次世代の卒業生が誇りを持って参加し、継続していけるようなOB祭となるよう、一致団結して精一杯取り組んでいく所存です。

最後になりますが、今年のOB祭は例年どおり8月の開催を目指して準備しております。これからも、実行委員長をはじめ実行委員会をサポートしつつ鋭意準備を進めて参りますので、今後とも皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年度 高鍋高校 ＯＢ祭実行委員会役員名簿

役　職	氏　名
実行委員長	江崎　紀之
副実行委員長	上江洲拓麻
	小田　恭子
	谷口　直美
事務局長	金城　成郎
事務局次長	竹原　祐二
事業総務局長	原田　知彰
事業推進局長	杉尾　康郎
事務運営局長	横山　芳人

卒業生評議員・クラス世話役一覧（令和４年度）

評議員

クラス	氏　名
305	興梠　陽太
305	宮中　愛海

世話役

クラス	氏　名	
301	永友　楽進	永友　奏
302	足利　翔貴	篠原ユリナ
303	阿波野壮太	犬童　由羽
304	竹下　大翔	谷　柚季
305	興梠　陽太	宮中　愛海
306	黒木　輝季	伊藤　心愛
307	染川　愛理	松尾　帆花

同窓会育英会会長賞

生活文化科 3年7組 **黒木　雫月**

探究科学科 3年6組 **黒木　輝季**

普通科(CI) 3年5組 **平瀬　琴子**

普通科(LA) 3年1組 **竹井　ゆい**

部活動等実績

大会名	競技・部名	個人or団体	競技種目	成績	学年	氏名
令和４年度宮崎県高等学校１年生体育大会	バドミントン部	個人	女子シングルスB	優勝	1	兒玉　李音
	ボート部	個人	男子シングルスカル	第１位	1	井上　佑人
第77回 国民体育大会いちご一会とちぎ国体	ホッケー部	団体	ホッケー競技会少年女子	第４位	3	(代)谷　柚季
第151回九州地区高等学校野球大会宮崎県予選	野球部	団体	野球	準優勝	2	(代)森下謙信
第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会宮崎県予選大会	ラグビー部	団体	ラグビーフットボール	優勝	3	(代)中津留真ノ介
					3	(代)加茂勇人
令和4年度宮崎県高等学校１年生大会ラグビーフットボール競技	ラグビー部	団体	ラグビーフットボール	第１位	1	(代)河野剛大
				第３位	1	(代)田村武士
第34回全国高等学校選抜競漕大会九州地区予選	ボート部	個人	女子シングルスカル	第２位	2	本部　七海
		個人	女子ダブルスカル	第３位	2	稲井　泉玲
					2	高畠　朋香
		個人	男子ダブルスカル	第６位	2	川路　舜正
					1	杉　恭多
第95回選抜高等学校野球大会「21世紀枠」九州地区候補校	野球部	団体	野球	「21世紀枠」九州地区候補校	2	(代)森下謙信
宮崎県新人総合体育大会	剣道部	個人	女子個人	第３位	2	中武　萌生
		団体	女子団体	第２位	2	(代)佐々木愛桜
	空手道部	個人	女子個人組手	第２位	2	俵崎　真央
宮崎県選抜剣道大会	剣道部	団体	女子団体	優勝	2	(代)中武萌生

大会名	競技・部名	個人or団体	競技種目	成績	学年	氏名
第44回宮崎県高等学校総合文化祭郷土芸能部門	明倫部（秋月鼓童）	団体	和太鼓部門	最優秀賞	2	(代)宇高和月
第44回宮崎県高等学校総合文化祭書道部門	書道部	個人	漢字創作部門	九州大会選抜賞	2	鈴木　咲光
第44回宮崎県高等学校総合文化祭美術部門	美術部	個人	美術部門	九州大会選抜賞奨励賞	3	湯浅　美彩
第44回宮崎県高等学校総合文化祭写真部門	写真部	個人	写真部門	金賞	2	河野　佑希乃
				金賞	1	齋藤　優衣
				銀賞	3	山村　弥生
令和4年度みやざき茶推進大会				茶業功労者表彰	3	(代)黒木雫月
GlobalLink2022	探究科学科	個人	社会科学部門	準優勝	3	守部心々音
第41回小村寿太郎侯顕彰弁論大会	探究科学科	個人		最優秀賞	3	守部心々音
第69回国際理解国際協力のための高校生の主張コンクール中央大会	探究科学科	個人	全国人権擁護委員連合会会長賞	優秀賞	3	守部心々音
第61回「税に関する高校生の作文」				宮崎県知事賞	2	河野　佑希及
				高鍋税務署長賞	2	田島　悠陸
				高鍋税務署長賞	2	西河　実優
第54回宮崎県統計グラフコンクール		団体	パソコン統計グラフの部	入選	1	(代)菊池武竜

選抜高校野球「21世紀枠九州地区代表校」に選ばれて

野球部主将　**森下　謙信**

昨年12月９日に九州525校の代表として高野連から選出され、選抜甲子園大会出場の期待が一気に膨らみ始めました。週末に限らず多くの出版社やメディアが取材に来られ、甲子園出場をリアルに感じる毎日でした。

１月27日野球部全員で高野連からの発表を聞く機会を頂きました。他の高校の名前を聞いた時には全身の力が抜けるのを感じました。本当に衝撃的な時間でした。

「一人で見るのはただの夢。みんなで見るのが本当の夢」

私達はこの２か月間、友達や家族、先生達と一緒に同じ夢を見ることが出来ました。この貴重な体験ができたからこそこの悔しさが生まれ、より一層甲子園出場という強い意志が固まり、夏の甲子園大会出場という宿命が私達には出来ました。

発表の１週間前に危篤になった祖父が選抜甲子園出場の知らせを聞くまではと頑張ってくれました。今年の夏に必ず甲子園出場の報告を天国の祖父にします。みんなで夏に本当の夢を実現します。

「１・27ありがとう」

花園全国大会を終えて

ラグビー部主将　**中津留真ノ介**

高校ラガーマンにとって夢の舞台である花園で報徳学園に敗れ、高校最後の花園が終わりました。

今年のチームは体が大きい方ではありませんでしたが、個々の能力が高く、FWやBKともにバランスのとれたチームでした。

私達は花園で正月を越すという目標で一年間頑張ってきましたが、新型コロナウイルスの感染のため、遠征や合宿などが中止となり、また、怪我人も多くチーム力をあげることが困難でした。しかし、限られた遠征や合宿などでチーム力を高め、花園予選決勝で良いチームを作り上げることができたと感じました。

花園初戦の相手は倉吉東高校。緊張のあまりミスが目立ち、自分達のラグビーができず、良い雰囲気で試合を終えることができませんでした。２回戦の報徳学園戦、メイングラウンドの迫力や観客の多さに心が震え、みんなの気持ちは「勝つ」ただそれだけでした。前半から粘りのDFで前へ出て相手のミスを誘い先制点をあげることができました。しかし優勝候補の壁は高く反撃できず、負けてしまいました。しかし、悔いはありません。とても楽しかったです。最高のメンバーと出会えて幸せでした。

花園に出場するまでにたくさんの方々に支えられました。支えてもらうことは当たり前ではありません。本当に心から感謝いたします。そして、高鍋高校ラグビー部をこれからもよろしくお願いいたします。

県選抜大会で優勝して

女子剣道部主将　**中武　萌生**

私たち、女子剣道部は１月22日(日)に行われた宮崎県選抜剣道大会で初優勝し、３月26日(金)～28日(日)愛知県で行われる全国選抜剣道大会の切符を勝ち取ることができました。決勝戦で対戦した宮崎日大高校は、11月新人大会の決勝戦で対戦し負けていた相手でした。新人大会の内容を反省し、普段の稽古では互いに高め合い『チームで勝つ』ことを意識して取り組んできました。決勝戦では仲間が大将の私まで勝負を繋いできてくれ、一本を取り勝敗が決した時はうれしさがこみ上げてきました。試合後は部員全員で抱き合い涙しました。

これまでの先輩方が築いてこられた歴史に、新たな１ページを加えることができ、本当にうれしく思います。支えてくださる先生方、保護者の皆様、地域の方々への感謝の気持ちを忘れず稽古に励み、全国選抜剣道大会では正々堂々とした試合ができるように頑張ります。応援よろしくお願いします。

全国大会へ向けて

ボート部主将　**本部　七海**

私は３月に行われる全国高等学校選抜ボート大会に出場します。目標は、３位以内に入ることです。ボート競技は、すごくきついスポーツですが努力をした分だけ強くなれます。そのために、水上トレーニング、エルゴトレーニング、ランニング、筋力トレーニング、それぞれに一切手を抜かず実践しています。

また、体のメンテナンス、食事の摂り方など専門の先生方に指導を受け、ベストな体づくりを意識しています。

私は、全国の強化合宿選手に選ばれ参加しています。たくさんの選手と高め合う機会に恵まれました。その経験を活かし、さらに高みを目指して日々練習に励んでいます。私の競技人生の中で一番大切にしている言葉は「努力は裏切らない」です。さまざまな方面で指導してくださった方々の期待に応えられる様、精一杯大会に取り組み、笑顔で結果を報告出来る様、全力で大会に臨みます。

全国高校総合文化祭に参加して

写真部　**山村　弥生**

今回参加させていただいた「とうきょう総文2022」では全国の方との交流や東京ならではの体験が出来た３日間でした。

１日目は、選択したコースが同じメンバーで交流しました。２日目は、スタジオでモデル撮影を行いました。前半は、モデル撮影、後半は、２種類の光を使い幻想的な撮影を行いました。光と影を上手く利用し今までにない作品撮りが出来ました。３日目は、300点以上の作品から選ばれた30作品の講評を聞き自分にはない考えが多数ありすごく刺激を受けました。実際に東京都美術館に展示されている入賞作品を見ると、どれもレベルが高く勉強になりました。

そして、自分の作品が展示されているのを見てたくさんの方に対する感謝の気持ちが生まれました。顧問の佐伯先生をはじめ高文祭で私の作品を金賞に選んでいただいた方々がいたからこそ、このような大舞台に参加することが出来ました。身につけた知識や技術、感謝を忘れずこれからも撮影に臨みたいと思います。

事務局からのお知らせ

明倫奨学金報告とお礼について

同窓会事務局長　**檜室　秀幸**

明倫奨学金に多くの有志の方々より寄付を賜り、誠にありがとうございました。この奨学金制度は皆様の寄付金によって賄われております。どうか今後とも変わらぬ御支援のほどお願い申し上げます。

令和４年度明倫奨学金寄付者

（令和４年４月以降）　敬称略

高鍋高校関西同窓会

※寄付者の公表は、同窓会支部、OB祭実行委員会、卒業生一同様に限らせて頂いております。企業及び個人の寄付者の公表は行っておりません。

なんきんはぜ

私は高校時代、本当の青春謳歌はできていなかったのかもしれない。「自分探し」という言葉が流行した時代に高校生だった私は、自分の個性が見出せずにいつも不安だった。夢中になれるものや好きな学問、向いている職業も分からなくて、進路も最後までずいぶん揺れた。そんな中で印象に残っているのは担任の国語の先生。周りからよく「いつも楽しそうだね」と言われていた私。でもその先生だけは時々、私に「本当にこのままでいいのか」と厳しく迫った。空虚な自分をごまかすように、うわべだけの青春謳歌を重ねる私を先生は見抜いていた。そんな先生を煙たい存在だと避けた時期もあったけれど、高三の冬に私が選んだのは国語教師になる道だった。

大学卒業後に講師として勤めた母校で、同僚の先生方との出会いを通じて国語教員志望の気持ちが高まった。特に国語科の先生方は、未熟な私を大切に育ててくださった。私の戯言に丁寧に耳を傾け、指導法に迷う時は先生方も同じ目線に立って一緒に考えてくださり、採用試験前には「あなたは勉強しなさい」と言って仕事を肩代わりしてくださった。採用が決まり、送別会で餞別の言葉と一緒にいただいた叱咤激励の言葉が並ぶ色紙。早くも初任校で行き詰まり、教員を辞めたいと思った時、その色紙を眺めて前を向いた。母校で出会った先生方から、私は国語教師のあるべき姿を学んだ。

私を支えるものはいつも言葉であり、多感な時期を過ごした母校で出会った言葉を指針にして「自分探し」をしてきた。また母校に戻ってきたが、高校時代、一思いに青春謳歌ができなかった私は正直、母校愛に乏しいと思う。でも同窓会の仕事に携わる中で、「母校のためなら何でもする」と言われる素敵なOBの方々との出会いがあり、こんな思いを持たれる高鍋高校はすごいと母校愛めいたものが生まれてきたような気もする。これから出会う一つ一つの仕事に対し、貴重なご縁だと捉えて真摯に向き合っていきたい。

布留川　文